

**授業概要**

小学校教員を目指す人が、小学校の授業について学びます。特に、国語科の教材を中心に基礎的な言語力をつけることができます。

春期は、小学校国語科教材(物語文)、秋期は小学校国語科教材(説明文)を中心に、国語科の授業についての基礎的研究を行い、言葉に関する知識を修得しつつ、文章を読む行為について研究します。

また、発表、討論、レポートを書くことによって、表現力を培い、専門演習へとつなげていくことを目的としています。ぜひ、小学校を目指す方、一緒に学びましょう。

**授業計画**

第1回	ガイダンス1(前半授業概要)	第16回	ガイダンス2(後半授業概要)
第2回	小学校の授業について①	第17回	小学校国語科教材の研究(説明文)①
第3回	小学校の授業について②	第18回	小学校国語科教材の研究(説明文)②
第4回	文章を読むという行為について①	第19回	小学校国語科教材の研究(説明文)③
第5回	文章を読むという行為について②	第20回	小学校国語科教材の研究(説明文)④
第6回	文章を読むという行為について③	第21回	小学校国語科教材の研究(説明文)⑤
第7回	小学校国語科教材の研究(物語文)①	第22回	物語作り①
第8回	小学校国語科教材の研究(物語文)②	第23回	物語作り②
第9回	小学校国語科教材の研究(物語文)③	第24回	物語作り発表・批評③
第10回	小学校国語科教材の研究(物語文)④	第25回	物語作り発表・批評④
第11回	小学校国語科教材の研究(物語文)⑤	第26回	授業研究①
第12回	国語科教材についてのまとめ①	第27回	授業研究②
第13回	国語科教材についてのまとめ②	第28回	授業研究③
第14回	国語科教材についてのまとめ③	第29回	授業研究のまとめ
第15回	春期のまとめ	第30回	秋期まとめ

**到達目標**

小学校教員を目指す人にとっての言葉と読むことに関する基礎的知識を修得し、調べる、考える、まとめる活動を通し、自己の言葉を振り返り、教師と子どもの言葉についての理解を深める。受講生は、発表、話し合という活動に積極的に参加すること。また、各回漢字・言葉などの基礎練習等を入れる。

**履修上の注意**

毎時間、自己の言葉を振り返り活動を行うため、受講者の積極的参加を求める。

また、原則として毎回出席すること。20分以上の遅刻は欠席扱いとなるので注意する。

**予習・復習**

事前に次の授業の内容や読むべき教材について考えをまとめる。

**評価方法**

授業内容の討論、発表、レポートにおける積極性や内容など総合的に評価する。

**テキスト**

必要となる文献等については適宜告知する。

## 授業概要

小学校教員を目指す人を対象に、授業を行うための基礎的な事項を学ぶ。

テキストを読み進める（各自は予習として各章ごとに通読をし、そこにある課題を必ずやってくるという反転授業の形式で行う）と共に、次時にはそれに関連する具体的な課題を取り上げ、全員で議論をしながら演習を進める。

## 授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	評価の方法ー学びをどう捉える?②
第2回	よい授業とは	第17回	教師の振る舞いの基礎基本①
第3回	インストラクショナルデザインとは①	第18回	教師の振る舞いの基礎基本②
第4回	インストラクショナルデザインとは②	第19回	学習意欲を高める方法①
第5回	授業の構想ー学習目標を明確にする①	第20回	学習意欲を高める方法②
第6回	授業の構想ー学習目標を明確にする②	第21回	協同的な学びをデザイン①
第7回	学力とは①	第22回	協同的な学びをデザイン②
第8回	学力とは②	第23回	情報社会に適応①
第9回	教材研究の方法ー何を教える?①	第24回	情報社会に適応②
第10回	教材研究の方法ー何を教える?②	第25回	授業の分析①
第11回	学習指導案の書き方ーどう教える①	第26回	授業の分析②
第12回	学習指導案の書き方ーどう教える②	第27回	学び続ける教師①
第13回	目標・指導・評価ー子どもは学んだ?①	第28回	学び続ける教師②
第14回	目標・指導・評価ー子どもは学んだ?②	第29回	学び続ける教師③
第15回	評価の方法ー学びをどう捉える?①	第30回	演習のまとめ

## 到達目標

教師の仕事について、教師の立場から重要点を、具体的な事例をもとに説明することができる。  
 子どもの学びについて、配慮すべき事柄を、いくつかの事例をあげて、説明することができる。  
 演習を通して、アクティブ・ラーニングのよさを体得し、主体的に学ぶ態度を形成する。

## 履修上の注意

次時までには、必ずテキストを読み、章末にある課題をやってくるのが求められる。

原則、遅刻は認めない。

他者の考え方をよく聴き、それにもとづき自分自身の考えを持つ（変容する）ようにし、それを他者に伝達する努力が求められる。

## 予習・復習

テキストの指定された箇所（章）を、次時までには読み、そこにある課題を行ってくる。

この事が済んでいる（できている）という前提で、演習は行われる。

## 評価方法

予習（反転授業）の有無やその成果、演習での討議への参加度、レポート等を総合的に評価する。

## テキスト

稲垣忠・鈴木克明編著「授業設計マニュアル Ver.2ー教師のためのインストラクショナルデザイナー」北大路書房（定価：2200円＋税）を用いる。

約200ページのテキストを1年間で読破するのですから、テキストを読んできるといふノルマは、1回あたりの分量としては、たいしたことはありませんね（200頁÷30回 or 200頁÷15回ですから）。

## 授業概要

教育の主体となる子どもの成長・発達に関連する諸状況について自ら関心のあることについて調べてまとめ、伝えるために必要な分析能力と表現能力を身に付けることを主眼としている。そのために、春期では最近の子どもの行動特徴について取り上げ、また子どもの理解を深めるために保育現場の観察も行う予定である。秋期では、視点をさらに発展させ、子どもの成長する環境、特に家庭と父親・母親を取り上げいろいろな角度から考える。内容に応じて、子どもを理解するための各種の心理検査の実施も取り入れて理解を深める。

## 授業計画

第1回	ガイダンス(春期のねらい)	第16回	ガイダンス(秋期のねらい)
第2回	教育をめぐる状況	第17回	最近関心を持ったこと①
第3回	最近の子どもの傾向と特徴①	第18回	最近関心を持ったこと②
第4回	最近の子どもの傾向と特徴②	第19回	子どもの発達についての問題提起
第5回	子どもの行動傾向とその原因	第20回	家庭での母親の役割
第6回	子どもを取り囲む環境の変化①	第21回	家庭での父親の役割
第7回	子どもを取り囲む環境の変化②	第22回	夫婦関係と子育て環境
第8回	子どもを取り囲む環境の変化③	第23回	家庭の影響力
第9回	子どもの成長・発達に及ぼす影響とは	第24回	望ましい家庭環境を形成するためには
第10回	子どもの成長・発達・行動①	第25回	子どもの性格形成と家庭環境
第11回	子どもの成長・発達・行動②	第26回	教育と家庭との連携協力の必要性
第12回	子どもの成長・発達・行動③	第27回	子どもの理解①家庭環境と子どもの性格(心理検査の実施)
第13回	家庭環境のあり方について考える①	第28回	子どもの理解②子どもの精神的発達を知る(心理検査の実施)
第14回	家庭環境のあり方について考える②	第29回	子どもの理解③子どもを見る視点
第15回	学外授業による保育現場の観察	第30回	まとめと話題提供

## 到達目標

- ①最近の子どもの行動の特徴について理解する。
- ②子どもを育む環境の重要性について視点を広げ理解する。
- ③教育者として、子どもを取り囲む家庭を中心とする環境の重要性について理解を広げる。
- ④関心のあることを自分で調べ、相手に伝えることを実践する。

## 履修上の注意

- ①関心のあることを自分で調べ、相手に伝えディスカッションを行うこともあるので、積極的に参加すること。
- ②毎回行われる内容についてわからないことがあるときは、その場で質問するように。
- ③内容に応じてレポートを課すこともある。

## 予習・復習

シラバスに基づいて次回の内容について触れながら進めるので、事前に下調べをしておくことが望ましい。また、発表する場合には発表内容に幅を持たせるようにグループ内で相談し、資料を十分に活用するように工夫すること。

## 評価方法

演習への取り組み(積極性)、レポートなどを加味して総合的に評価する。

## テキスト

特に指定しないが、進行に応じて参考図書を紹介する。

## 授業概要

前半は、理科教育、環境教育に係わるテーマ等の諸課題について、選択的にテーマを決定し、分析・検討することを通して、課題を見出し、それを探究し、そのプロセスや成果についてまとめて発表のプレゼンテーションを行う。また、これらの諸課題に関わる内容に関して、子どもへの指導という観点から指導案や教材を試行的に作成する。

理科離れが叫ばれる昨今、観察・実験、体験等を通じた学習の実践が求められている。しかし、学校現場では、児童はもとより指導する教師側の理科離れの現状が問題点となっている。そこで、本演習の後半では、理科に関する知識の定着や実験技能の取得を図るとともに、模擬授業等を通じて将来的な教育現場での実践力を身につけることを目標とする。

## 授業計画

第1回	前半オリエンテーション	第16回	後半オリエンテーション
第2回	課題設定・課題探究過程について	第17回	授業参観の仕方と発表の順番等の決定
第3回 ～4回	グループによる課題選定と設定	第18回 ～23回	理科に関する知識の定着及び実験技能取得のための活動 *学外活動
第5回 ～6回	理科教育、環境教育に係わる現代的課題等の分析と探究のための計画立案（資料収集、調査活動、整理の仕方等）		
第7回 ～9回	理科教育、環境教育に係わる現代的課題等の探究活動（文献資料、インターネット、フィールド調査、課題探究活動の報告・方向修正等） *学外活動	第24回 ～28回	模擬授業の実践と検討会
第10回 ～12回	理科教育、環境教育に係わる現代的課題等の探究過程と成果の整理・発表の準備（アウトラインの設定と資料作成）		
第13回	発表のプレゼンテーションと検討会		
第14回 ～15回	学習のまとめ（レポート 成）	第29回 ～30回	学習のまとめ（レポート作成）

## 到達目標

- ・理科教育・環境教育に関する課題に対して得られた情報を正しく整理してまとめ、発表することができる。
- ・理科に関する知識をもとに、観察・実験を正しく行うことができる。
- ・予備実験等を通じて綿密に授業計画を作成し、模擬授業を展開することができる。

## 履修上の注意

授業を土日に振り替えて、学外に出る必要が生じることもある。グループでの活動や個人発表が多くなるので、欠席しないことが前提になる。

実験や観察を行うに当たり、その都度、必要に応じて教材費を徴収することがある。

遅刻3回で欠席1回として扱う。また、20分以上の遅刻は欠席として扱う。

## 予習・復習

本演習の単位修得には、プレゼンテーションや個人レポート作成、模擬授業の準備など、授業以外の自主学習が必要となる。それぞれを計画的に進めることができることが必要である。

## 評価方法

授業中の態度、出席回数、プレゼンテーションへの取り組みと発表内容、個人レポート、模擬授業の様子などによって総合的に判断する。

自身のプレゼンテーションや模擬授業を欠席した場合、授業に無断で欠席した場合は評価の対象とはしないので十分注意すること。

## テキスト

適宜印刷資料を配付する。

## 授業概要

日本と世界の童話や昔話などから代表的な物語について指導するとともに、研究発表のやり方についても指導します。一人一人が自分の興味に従って童話や昔話を選び、作品について及び教育・保育上の意義・取り上げ方などについて、調査・考察を重ねて研究発表を行います。また、聞き手も、発表内容について意見・感想・疑問点等を述べ、意見交換や討論を行います。この発表や意見に対して、指導を行います。卒業論文を書くことにつながるように、発表内容をレポート化することや隣接分野の書籍を読むことも指導します。

また、図書館・博物館などの外部施設見学も行います。

## 授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	世界の昔話研究「大きなカブ」
第2回	日本の昔話概説	第17回	世界の昔話研究「ジャックと豆の木」
第3回	日本の昔話研究「桃太郎」	第18回	世界の昔話研究 ベロー
第4回	日本の昔話研究「浦島太郎」	第19回	世界の昔話研究 グリム
第5回	日本の昔話研究「花咲か爺さん」	第20回	世界の童話概説
第6回	日本の昔話研究「猿蟹合戦」	第21回	世界の童話研究 イソップ
第7回	日本の昔話研究「かちかち山」	第22回	世界の童話研究 アンデルセン
第8回	日本の童話概説	第23回	世界の童話研究 ルイス・キャロル
第9回	日本の童話研究 小川未明	第24回	世界の童話研究 C・S・ルイス
第10回	日本の童話研究 浜田廣介	第25回	世界の童話研究 ローリング
第11回	日本の童話研究 宮沢賢治	第26回	施設見学1（国際子ども図書館）
第12回	日本の童話研究 新美南吉	第27回	施設見学2（相田みつを美術館）
第13回	日本の童話研究 松谷みよ子	第28回	施設見学3（ちひろ美術館）
第14回	世界の昔話概説	第29回	施設見学4（東京子ども図書館）
第15回	世界の昔話研究 「三匹の子豚」	第30回	施設見学5（アンデルセン公園）
		第31回	施設見学6（三鷹の森ジブリ美術館等）

## 到達目標

日本と世界の代表的な童話・昔話について知り、童話・昔話等の物語を学ぶための基礎的な知識を養うことが目標です。また、研究調査及び研究発表の方法を身につけ研究発表ができるようになり、同時に他の発表者から学ぶ姿勢も身につけます。

## 履修上の注意

授業態度、授業参加度を重視します。授業中に、毎回、交互に研究発表を行い、その内容を評価します。聞き手は、発表についての意見・感想・疑問等を述べ、それも評価に加えます。また、施設見学レポート等、提出物も評価に含めます。多数の様々な書籍を読み研究発表を行うので、地道にコツコツと努力できる人に向いています。無断で発表を欠席した場合は、単位を放棄したものとみなします。

## 予習・復習

研究発表を中心に行いますので、調査したり考察したりまとめたりする作業は、授業内だけでは不十分ですので、事前の自主学習が必要となります。また、研究発表の際に提示された問題点等を解決するための復習も必要となります。

## 評価方法

授業態度、授業参加度、研究発表、提出物（レポート等）  
研究発表 40% レポート 40% 受講態度 20%

## テキスト

教材・参考書等は、授業中に指示します。

**授業概要**

この授業は、現代社会の課題の中から、授業履修者の興味のある問題について、グループ研究を行っていく。具体的には、グループごとのテーマ設定を行い、「調査・研究」をして、グループの参加者が分担しながら報告書を作成していく作業を経験していく。そして、完成後には人前での発表することも経験してもらう。

ここで対象とするテーマは、教育問題に限定することなく、あらゆる関心のあることを取り上げていく。

また、本授業では、研究方法について学んでもらうため、講義者が対応できる歴史学手法と社会学的手法について基礎的な学習の機会も予定している。

なお、実地的経験のため、年間数回の学外調査を予定している（土・日など）。

**授業計画**

第1回	授業を始めるにあたって	第16回	夏休み中の調査発表①
第2回	現代社会にはどのような問題があるか	第17回	夏休み中の調査発表②
第3回	関心のあることを探してする	第18回	課題についての先行研究を調べる①
第4回	研究とは何か	第19回	課題についての先行研究を調べる②
第5回	社会学について	第20回	文献資料の批判につて
第6回	研究したいテーマを発表する	第21回	グループ作業①
第7回	課題について分類化する	第22回	グループ作業②
第8回	前回の分類化をもとにグループ化する	第23回	グループ作業③
第9回	グループごとにテーマを考える①	第24回	グループ作業④
第10回	グループごとにテーマを考える②	第25回	報告書の作成①
第11回	研究方法を発表する	第26回	報告書の作成②
第12回	学外調査①	第27回	報告書の作成③
第13回	学外調査②	第28回	グループ発表①
第14回	調査のまとめ	第29回	グループ発表②
第15回	グループ発表	第30回	授業のまとめと今後の課題

**到達目標**

- ①社会問題の中から学生自身が課題と考えるテーマを導き出せるようになる。
- ②類似したテーマを持つものが互いに意見交換しながら報告書を作成できるようになる。

**履修上の注意**

グループ作業が多いので他の参加者に迷惑をかけないようにする。欠席なども他人に作業を押し付けることにもなるので気をつける。

学外調査を行う予定であり、安易に欠席をしないこと。

**予習・復習**

授業で出された課題は必ず行うこと

**評価方法**

日々の課題や報告書の内容、発表などを総合して行う。

**テキスト**

授業において、学生の関心あるテーマに沿ったものを紹介する。

**授業概要**

現代社会の福祉的課題についてグループワークで議論を深め、グループごとにパワーポイントにまとめて発表する。そこからまた新たな課題をみつけて、探求していく。

**授業計画**

第1回	自己紹介と自己開示	第16回	主張と課題の関係について
第2回	課題探求①	第17回	課題探求①
第3回	課題探求②	第18回	課題探求②
第4回	調査①	第19回	調査①
第5回	調査②	第20回	調査②
第6回	調査③	第21回	調査③
第7回	発表準備①	第22回	発表準備①
第8回	発表準備②	第23回	発表準備②
第9回	発表準備③	第24回	発表準備③
第10回	発表	第25回	発表
第11回	発表	第26回	発表
第12回	発表	第27回	発表
第13回	新たな課題探求①	第28回	新たな課題探求①
第14回	新たな課題探求②	第29回	新たな課題探求②
第15回	今期のまとめ	第30回	まとめ

**到達目標**

現状のすべてを肯定するのではなく、自ら課題をみつける力を養う。

**履修上の注意**

現在の福祉をよりよくしようという意欲をもって臨むこと。学外にて演習の予定あり。

**予習・復習**

発表する内容をまとめてくること。

**評価方法**

発表の内容と授業への貢献度により評価する。

**テキスト**

コピーを配布する。